

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団 恵翔会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	北斗市本町2丁目7番7号		
自己評価作成日	平成26年4月16日	評価結果市町村受理日	平成26年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との併設という事もあり、個別にあったケアを取り入れ健康管理の面で安心して生活出来ると思います。
地域の方の協力の元、畑を作り、苗植え、水やり、収穫の作業を楽しめる取り組みや、ボランティアや行事、ドライブや散歩など気分転換をしていただけるような取り組みも心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_201_2_022_kan=true&JigrosyoCd=0171500739-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年5月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北斗市は8年前に上磯町と大野町が合併して誕生した市であり、その旧大野町の中心部に立地している「グループホーム めぐみ」の周辺には、北斗市総合分庁舎や、警察派出所、郵便局、スーパーなどがある。運営母体が医療法人で、代表者が経営するクリニックの待合室と廊下で繋がっている平屋造りの当事業所は、日中には看護師や診察に訪れた利用者の知人・友人が往復したり、利用者の歩行訓練の場所ともなっている。永年勤務されている管理者や職員が多いので職員間の信頼関係が築かれている。事業所は、警察駐在所と徘徊ネットの協力の依頼や、災害時に備えて消防署と連携するなど、地域との関わりを積極的にしている。利用者は家庭的環境の中で職員の明るい笑顔に接しながら、地域の方々と気軽に挨拶を交わし、ボランティアの訪問を楽しみに生活している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(A棟アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、スタッフ理念の二つを掲げ来訪者やスタッフの確認しやすいよう玄関に掲示し、意義を踏まえた上で実践に活かしている。	人の心を尊び、思いやる心を「基本理念」とし、明るく笑顔で居心地のよい施設を目標とした「スタッフ理念」を事業所内に提示すると共にケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭や七夕、行事の参加、近所の方の協力で家庭菜園を行なうなど地域社会への繋がりに努めている。	町内会のクリーン作戦の参加や、事業所の花火大会、七夕まつりには近所の子供とのふれあいがあり、家庭菜園に地域の方々が協力してくれるなど交流が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて・スタッフが参加した認知症の講習内容の発表をしたり、地域行事の参加や、買い物、散歩、消防訓練などで事業所や認知症を理解してもらえるよう協力関係の強化に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回御家族様、地域代表者と話し合いや、行事の報告、避難訓練などの参加を通し、意見や助言を頂きサービス向上に反映出来るよう努めている。	行政や家族・町内会などの参加で定期的に開催している。スナップ写真を用いて利用者の日常生活を伝え、行事や運営状況の報告があり、家族からは夜間2人体制の要望がでるなど活発に意見交換があり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡や報告以外にも、運営推進会議への参加協力を求め関係性を強化出来るよう努めている。	市担当者とは常に情報交換を行い、ケースワーカーが定期的に訪れている。事業所近くの警察駐在所に情報を提供して徘徊の協力を依頼するなど関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族と同意書を交わし、皮膚疾患のある方は、オムツホルダーを使用する事例はあるが、基本は、指定基準における禁止行為を守り、職員全体が理解し実践している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員は拘束による弊害を理解している。医師の指示と、家族の許可を得てオムツホルダーを使用することもあるが、職員の観察や記録を基にミーティングで検討論議し、就寝時のみの使用に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止を常に心がけ対応をしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、管理者や職員は権利擁護に関する制度の理解に努め必要に応じて支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時などで不安や疑問点がないよう十分聴取し、納得と理解が得られるよう環境を整備している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外でも、お手紙や面会時などを通じ意見交換をできる関係性作りに努め、そこで出たものを運営に反映できるよう取り組みをしている。	家族の訪問時や運営推進会議などで、意見や要望を引き出す努力と場面作りをしている。表出された意見を前向きに活かし、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長、管理者は常に職員の意見や要望を聴ける環境を設け職務をする上で反映している。代表者にはホーム長が報告し改善に努めている。	代表者は月1回のミーティングの中で職員と意見交換を行い、表出された課題を検討しサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティング時や、管理者から代表者へ話を伝えることは出きるが、環境の整備、ベースアップがなく厳しい面も感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が向上出きるよう必要な研修を選定し参加、情報交換を行い実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り研修会などに参加し、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、話をする機会を設け、要望、希望などを確認し、安心して利用して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時や見学時にも話しをする中で要望、希望などを汲み取れるような会話作りを務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援を話をする中で見出し出せるようにし、適応に幅を持たせケアを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、共にできることを探しながら、信頼関係を築き支えあえるよう取り組みをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、電話や手紙で現状を報告し、常に相談・連絡などが出来、本人にとって家族が精神的に支えてくれているという事を感じられるよう取り組みをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事やボランティアを通じ馴染みのの方々へ触れ合う機会を設けたり家族の協力を得ながら、外出、外泊をしたりと関係が継続できるよう支援に努めている。	家族の協力を得ながらお盆やお正月の外泊を支援している。市主催の文化祭や地域の行事の時に昔のサークル仲間との再会がある。職員は年賀状の代筆や知人の訪問時には関係が継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を理解し、本人の意思を反映させながら孤立する事の無いよう、行事、外出時など関わり合いを持てるよう支援している。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、必要に応じいつでもフォロー出来る体制にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの範囲で、本人の希望に沿うように認知症上に合わせて創意工夫したケアを行っている。	一人ひとりの生活に寄り添いながら思いや意向の把握に努めているが、困難な時には動作の観察や職員間の連携と、家族からの情報を得ながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者から多くの情報を収集し把握に努め、自宅暮らしに近い生活を提供できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や、生活の中で観察し職員同士の情報の共有、話し合いのもと現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に合った生活が送れるように、本人、家族・必要な関係者と話し合いを行い意向・意見に添った介護計画作りに努めている。	本人・家族からの要望を反映させながら、サービス担当者会議を実施し、主治医や職員、ケアマネジャーと協議をして担当者が現状に合った介護計画を作成している。	介護日誌の中にある介護計画と実施状況の記録が不明瞭なので、記録の方法に工夫されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に変化など随時対応した内容を記録し、実践に活かし次のプラン見直しにも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて柔軟な対応が出来る支援や多機能にサービスを提供できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や、花見、七夕、祭り、近隣への買い物同行など交流を行い、地域の雰囲気を楽しみながら生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設した病院のかかりつけ医、家族、本人と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の希望で従来のかかりつけ医の継続受診は可能で、職員は通院の送迎をしている。代表者は内科医であり、専門外の医療機関と情報を共有し24時間の連携体制も整えている。	

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設した病院での毎月の定期診察以外にも、状態変化があれば報告し、必要時は受診ができ、夜間休日においても担当看護師や訪問看護師と連絡をとり適切な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、家族・病院関係者と連絡を密にし、情報交換し、併設病院やスタッフ間でも話し合い状況に応じ対応出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では、終末期の対応はしていないが、本人・家族・主治医と相談しながら、又、総合医療機関との連携をとり出来るだけ希望に添った対応をしている。	重度化に伴う事業所としての指針を入居時に家族に説明し同意を得ている。主治医の判断により終末期を迎えた時には家族の意向を重視した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルをすぐに確認出来る様配置し研修やミーティングで話し合い情報を共有し対応出来る様取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練し、非常食も備蓄している。家族・近隣者への協力を得て緊急時の連絡網を作成するなど災害対策に努めている。	年2回、日中・夜間想定訓練を家族や地域の方々の参加で実施している。居室入口のネームプレート裏に状況を記入し、消防署と情報を共有している。地域の協力者との連絡網も整備されており、備蓄品も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握した上で、プライドや羞恥心に配慮したその人にあった言葉掛けをするよう対応している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、羞恥心に伴うプライバシーには特に配慮しながら、守秘義務を十分理解し、誇りを傷つけない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常内の会話や行動の中から希望や思いを汲み取り、出来る限り希望に添える働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調や気分を考慮しながらペースを大切にその人らしい生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の趣向に合わせて、本人と買い物へ行ったり、出来る範囲内でおしゃれが出来るようにしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを考えたり、家庭菜園や食材の買出し同行、職員と一緒に準備や方付けをする事で興味や、楽しみに繋がられるよう工夫している。	家庭菜園の新鮮な野菜を収穫して食材にしたり、秋には栗拾いをして栗ごはんを献立に取り入れるなど、職員と利用者が一緒に調理に携わり、食事を1日の大切な活動のひとつにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の状態に合った、量や栄養バランスを考え食事を提供し、メニュー作成時もDrに確認してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人にも協力してもらいながら個別の状態に合わせ、口腔ケアを行ない清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、個別での排泄パターンを把握し、尿意、便意を尊重し排泄の失敗を少なくするように努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、さりげない声がけや誘導などで自立に向けて排泄支援をしている。失禁時には、羞恥心や不安を軽減するために配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態を把握しその人に合った予防や、できる限り身体を動かして頂くよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の曜日は決まっているが、状態や希望に添って入浴できるよう環境を整えている。	週2回の入浴を目安にしているが、職員は本人の習慣や好みを聴いたり、家族からの情報を得ながら入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを把握するよう努め、出きるだけ活動量を増やしてもらい、夜間良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一目で分かり把握できるようにケースに個々の薬表を入れ保存し、変化に気をつけながら個別にあった服薬方法を用いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなこと、できる事など能力を引き出し、日々張り合いのある生活を支援している。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を考え、状態や体調を見ながら季節に合わせたドライブや散歩を提供し、地域行事の参加や御家族様協力のもと、外出、外泊の機会を設けている。	天気の良い日は、近くの大野川沿いの桜並木の散歩や買い物、家庭菜園の手入れなど、本人の希望により個別に外出支援をしている。春のお花見から秋の紅葉祭りまで、月1回、活動計画を作成して積極的に外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今、現在はお金の管理が出来る方はいないが、一緒に買い物に行く事や希望時にはいつでも使用できるように個々に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力の下、希望時にはいつでも連絡が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と四季に合わせた飾り付けをしたり、適温を保ちながら不快な思いや混乱を防ぐよう、清潔で生活しやすい空間作りに努めている。	玄関ホールや居間兼食堂、台所が吹き抜けの造りで、天窗から光が差し込み明るくて広く開放感があり、利用者が寛ぐことができるソファがある。不快な臭いや音もなく、季節に合わせて装飾を変え、居心地のよさに工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外にも、離れた所から周りを見わたせる箇所や、外を眺められる箇所に椅子を設置し、希望時や気分に合わせて他者と交流出来るよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用されていたなじみのある物や本人が作成したもの、写真などを用いながら、本人、家族と相談のもと過ごしやすく出来るよう工夫している。	在宅当時使用していた家具や日用品が持ち込まれ、家族の写真や、孫からの手紙が飾られ、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどプレートなどを扱い把握し易いようにしたり、玄関には椅子を置き靴の着脱をし易いよう工夫している。又、余分な物ははぶき歩行の妨げにならないよう安全な環境づくりに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団 恵翔会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	北斗市本町2丁目7番7号		
自己評価作成日	平成26年4月16日	評価結果市町村受理日	平成26年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

内科の病院と併設しており、入居者様の体調の変化は日々細かくチェックしています。その都度適切な対応しているため、持病のある方も安心して生活することができます。地域の方の協力を得て、家庭菜園を作り、入居者様と一緒に水やりや収穫をして食べることを楽しんでます。その他、行事でボランティアの方に来ていただいたり、誕生日会、散歩やドライブ、買い物などの楽しみごとを増やせるよう対応しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_201_2_022_kan=true&JigrosyoCd=0171500739-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年5月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(B棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体ミーティングで、事業所理念・ケア理念を職員全員で確認し、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方には、散歩等の際に挨拶したり、花壇や盆栽を見せていただき、子供さんとは一緒に花火をしたり、セタに呼んだりしている。また、フラダンスや民謡のボランティアの方に来ていただいたり、文化祭には作品を展示して参加し、地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で話をする機会を設けたり、家族や近隣の方に避難訓練へ参加していただき、認知症の理解を得られるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方を中心に、包括職員、市役所職員、消防の方が参加し、行事や取り組み、評価結果、職員研修等について報告し、話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度連絡、相談をしたり、運営推進会議に参加していただき、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解はしている。身体拘束もしないよう努めているが、夜間にオムツいじりで失禁が多く、いろいろ試したが改善できず、オムツホルダーを使用している方が1名いる。玄関の施錠は、夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会を設け、職員間で情報を共有し、一人ひとりが心がけ、虐待防止に努めている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を設け、必要な人には支援しているが、現在はいいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に面談を行い、話を聴く機会を設け、説明を行い、同意を得た上で契約・解約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情などを言える関係づくりに努め、ケアプラン作成時や手紙を送付する際にも、意見や要望を引き出せるよう声掛けし、面会時や運営推進会議にて意見をいただき、都度対応している。また、苦情・相談窓口を設けており、都度対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、一緒に働いている中で、職員の意見や提案を聞いている。代表者とは、管理者から伝えるほか、ミーティングの中で話し合い、職員の意見を伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	調理のパートさんを近所で募集し、現在3名働いている。また、ケアスタッフのパートも1名いるため、人力的には少し余裕が出たが、ストレスがたまって、有給休暇がとれないため、リフレッシュするには不十分な状態。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員の力量・希望・目標に合わせて決め、お願いしているが、お金がかかるものはあまり行けず。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員は、協会の活動も多いため、勉強会や研修において交流する機会も多い。 介護職員は、研修や講習に参加しているが、交流する機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談し、直接会って話を聴く機会を設けている。本人より聴くことができない場合は、家族や居宅介護支援専門員、看護師等から聴き、安心できるようコミュニケーションを図りながら、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際や、面談時など、話をする機会にできるだけ聴き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話をしたうえで、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で、助けていただくこともある。コミュニケーションを図り、喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の手紙などでコミュニケーションを図り、一緒に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度の認知症であったり、地元以外の入居者もいるが、知人が会いに来ている方もいる。また、希望があれば外出・外泊を支援したり、できるだけ地域の行事に参加するようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	棟内だけでなく、隣の棟の入居者の方との交流もあり、一緒に体操をしたり、歌ビデオを観たり、ティータイムを過ごしたりしている。また、お互いに居室に呼んでお話ししていることもある。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティング時や必要時に検討し、病状によっては困難な場合もあるが、できる限り本人本位となるよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報や、わかる範囲で本人、家族から聞き、面会時にも協力を得て把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、様子を観察・記録し、申し送りや職員同士伝え合うことで、職員全員が情報を共有し、把握できるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見や要望、職員の意見やアイデアを聞いたうえで、医師の指示などもふまえ、ケアプランを作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを記録し、職員間で情報を共有しながら実践し、モニタリングをしたうえでプランを見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外部受診や救急対応など、都度対応できるよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察には、入居者の写真と特徴を記入したファイルを提出し、一人で歩いている際の保護をお願いしている。消防には、避難訓練や火災・救急時の対応で協力を得ている。ボランティアには、行事で来ていただいている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と併設しており、都度相談し、指示を得て支援している。希望があれば、併設している病院以外でも受診支援をしている。			

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は、併設病院に3名の看護師がおり、都度相談・報告しながら支援している。また、休日には訪問看護と連絡を取り、対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護師や相談員と面会時や電話で連絡を取り、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師が判断した段階で、医師、看護師、家族、管理者で話し合いを行ない、看取りはしていないが、できる限り本人や家族の意向に沿うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習は行なった。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間想定で行い、家族や近隣の方にも協力をお願いしている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説明はわかるように行い、納得したうえで生活できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況や病状に応じて、できる範囲で希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が選んだ服やスカーフ、カチューシャ、好む色など、その人らしい服装ができるように支援している。また、入浴後にはボディ・フェイス共にお肌のお手入れもしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきなどの食事の下準備から、配膳、下膳、テーブル拭き、食器洗い・拭きなど、できる人はできる範囲で行っている。また、誕生日会にケーキを皆で食べたり、季節の食材を献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形状は一人ひとりに合わせ、病状によっては、病院からの指示があり、栄養のバランスも調節している。水分に関しては、1日1,000ml~1,500mlを目標にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導しており、状態にもよるが、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らず、排便を促す飲み物で対応したり、できる方には運動を支援し、腹部マッサージなども行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望はないため、1週間に2回、曜日や時間帯は決めているが、状況に合わせていつでも入れるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解・症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	働きに来ていると思っている方には、仕事をお願いしている。気分転換に、散歩やドライブなどの機会を設けたり、室内でも歌が好きな方にはビデオやCDを提供。行事や誕生日会などもしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲で散歩やドライブ、買い物など支援している。地域の行事にもできるだけ参加し、普段は行けない場所には、行事やドライブとして計画を立てて支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方は施設管理し、どうしても持ちたい方には、家族同意のもとと小額持っていていただく。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をしていただいたり、年賀状を準備し、書けない方は代筆している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように努めている。季節に合った飾りつけは、異食がある方がいるため、手の届かない場所のみ飾っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自室、気の合う入居者同士とは自室に呼んだり、居間や食卓、時には隣の棟で自由に過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明はしていても、新しい物を購入してきてしまうことも多いが、ベットか布団など、それぞれできるだけ使い慣れた物を使用していただき、居心地良く過ごせるよう努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽に滑り止めマットを敷いたり、要所へ手すりを設置している。食事時の椅子は、それぞれ手すり付きやつかないもの、クッションを使用するなど工夫している。また、各居室・トイレにはプレートをかけている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム めぐみ
作成日：平成 26年 5月 26日
市町村受理日：平成 26年 6月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	・介護計画と実施状況の記録方法が不明瞭	・ケアプラン、ケースとの連動性が見られるよう明確化。	・ケアプランに沿った内容とわかりやすく色分けなどし、工夫する。	1年
2	5、34	・夜間2名で夜勤を行うための、人員の継続的な確保。	・人員募集を継続し、不足している職員を確保。	・継続して職員を募集し、続けて働ける環境づくりをする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。